

授業概要

日本漢文学は、中国からもたらされた漢字、学術、文化、そして文学を基礎として成り立ったものですが、その多大な影響を受けつつも、日本の学術、文化を取り入れ、また輸入された中国古典文、すなわち漢文を日本語として読解するために「漢文訓読」という方法が開発されたことも大きく関わり、独自の発展を遂げてきました。本授業では、日本における漢文の歴史を概観し、詩、論、随筆など日本人が著したさまざまな漢文体の文章について読解しつつ、各作品、作者の歴史、学問的背景、またそれらの日本文学への影響、関係などについて講義していきます。

授業計画

第 1 回	導入
第 2 回	漢文学・中国学・中国古典文献概説
第 3 回	日本における漢文の歴史①上代から中古
第 4 回	日本における漢文の歴史②中世から近世
第 5 回	日本における漢文の歴史③幕末から近代
第 6 回	上代から中古の漢文を読む
第 7 回	中世の漢文を読む
第 8 回	近世の漢文を読む①文学
第 9 回	近世の漢文を読む②史伝
第 10 回	近世の漢文を読む③論
第 11 回	幕末期明治期の漢文を読む①明治維新と漢学者
第 12 回	幕末期明治期の漢文を読む②明治維新と漢詩人
第 13 回	幕末期明治期の漢文を読む③明治維新と漢文学
第 14 回	幕末期明治期の漢文を読む④繁昌記
第 15 回	まとめ：総復習と補足
第 16 回	定期試験

到達目標

日本における漢文の歴史、中国からの影響とまた中国古典との相違などを理解し、日本漢文学の基本的知識を修得するとともに、個々の作品について、各時代の文化、学術の動向をふまえて多角的に読解できることを目標とします。

履修上の注意

履修にあたって、中国文学、日本漢文学についての知識がなく、“漢文”に苦手意識を持っていても大丈夫です。基本的事項から講義していくので、積極的に授業に臨み、日本漢文学について興味を持てることを期待します。また授業時には、適宜メモをとる習慣を身につけるようにしましょう。

予習・復習

予習：次回授業時の資料について参考文献などを参照しつつ一読し、不明な語句等については調べておく。
復習：授業内容を整理し、不明な点、疑問点などは辞典、参考文献等で確認しておく。

評価方法

筆記試験 70% 平常点 30% (授業、課題への取り組みなど)

テキスト

基本的にレジュメを配布します。その他、参考文献等は授業時に随時紹介します。